

第2回 国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構分科会 議事要旨
(総務省国立研究開発法人審議会 第2回宇宙航空研究開発機構部会との合同開催)

1. 日時：平成27年7月10日(金) 13:30 - 17:00

2. 場所：内閣府宇宙戦略室大会議室

3. 出席者

(1) 委員(内閣府側)

山川分科会長、田辺分科会長代理、青木委員

(2) 委員(総務省側)

梅比良部会長、水野部会長代理、知野委員、入澤専門委員、小林専門委員、藤本専門委員

(3) 事務局(内閣府)

小宮宇宙戦略室長、中村宇宙戦略室審議官、頓宮宇宙戦略室参事官

(4) 事務局(総務省)

山内宇宙通信政策課長

4. 議事要旨

(1) 平成26年度業務実績評価の進め方について

事務局から、資料1等に基づき、平成26年度業務実績評価の進め方について説明を行った。

(2) 宇宙航空研究開発機構の平成26年度業務実績評価について

JAXAより、資料2に基づき、平成26年度業務実績評価の概要について説明を行った。

(3) 宇宙航空研究開発機構からのヒアリング

資料2に基づき、評価項目ごとにJAXAからヒアリングを行った。当該説明を踏まえ、委員から以下のような意見等があった。(以下、意見等、JAXAの回答)

リモートセンシング衛星の評価をAではなくSとした理由は何か。

ALOS-2において、諸外国のレーダ衛星と比較して観測時間を長くする等、高いレベルの技術を獲得し、世界を凌駕したことと、それによって、新しい分野への波及効果があったことが大きな理由である。

安全保障に関する取組は、今後どこまで拡大していくつもりなのか。

国の方針に沿い、JAXAとして技術の観点から貢献できることをやっていく。

広報の効果を機会費用の観点から金銭換算しているが、不祥事等の報道によるマイナス効果は考えないのか。

広報の評価として、理事長の定例記者会見がどの程度効果があるかも、評価指標になるのではないか。

本日の説明を踏まえ、各委員は、JAXAの平成26年度業務実績評価に対する意見を提出し、次回のJAXA分科会において意見の取りまとめを行うこととなった。

以上